



要望書第 2 号 拝參

今後の観光振興に関する要望書

一般社団法人栗東市観光協会

令和 5 年 10 月 12 日

目次

| No | 要望事項 | 区分 | 件 |
|----|----------------------------------|------|----|
| 1 | 持続可能な観光振興の実現に向けた推進体制の構築支援 | 重点要望 | 2 |
| | (1) 観光振興ビジョンに資する職員体制への重点支援 | [継続] | |
| | (2) 財源の確保に向けた取組への継続支援 | [継続] | |
| 2 | 森林空間をはじめとした自然資源の活用による地域活性化への取組支援 | | |
| | (1) サステイナブルな観光実現に向けた取り組み推進への支援 | [新規] | 4 |
| | (2) 継続した来訪による地域経済活性化に向けた取り組みへの支援 | [継続] | |
| | (3) 周遊促進施策への継続支援 | [継続] | |
| 3 | 歴史文化要素の保存継承に向けた取組への支援 | | 6 |
| | (1) 国指定史跡の観光拠点化推進 | [継続] | |
| | (2) 国指定史跡周辺の受入環境整備への重点取り組み | [継続] | |
| | (3) 新たな魅力創出にかかる取り組み支援 | [継続] | |
| 4 | 市内への観光客受入環境整備への継続支援 | | 8 |
| | (1) 市内二次交通の確保に向けた取組への継続支援 | [継続] | |
| | (2) 駅構内観光案内拠点の機能強化 | [継続] | |
| | (3) 拠点となる施設の受入環境整備 | [継続] | |
| 5 | りつとうの魅力を伝える戦略的な情報発信体制への継続支援 | | 10 |
| | (1) 情報発信環境の整備に向けた取組への継続支援 | [継続] | |

1. 持続可能な観光振興の実現に向けた推進体制の構築支援

一般社団法人栗東市観光協会（以下、当協会。）は、法人化以降、滋賀県「やまの健康推進モデル地域」としての取り組みや、観光庁「第2のふるさとづくりプロジェクト」など、地域で活動する団体と連携し観光の振興による地域経済の活性化に寄与してきました。

地域経済活性化のために観光振興の牽引役として当協会事務局の職員体制確保および観光振興に充てる財源の獲得を図ることにより、地域課題の解決につなげ、継続的な地域経済への貢献が実現します。

【重点要望】〈継続〉

【要望内容】

- (1) 栗東市観光振興ビジョンに資する事務局組織への重点支援
 - ・人材の雇用に対する経費支援
 - ・案内所へ市職員の継続配置
- (2) 財源の確保に向けた取り組みへの継続支援
 - ・観光施策に用いる財源確保に向けた取り組み支援
 - ・地域の稼ぐ力を引き出すための調整機能を備えた法人となるべき取り組みに対する経費支援

【要望理由】

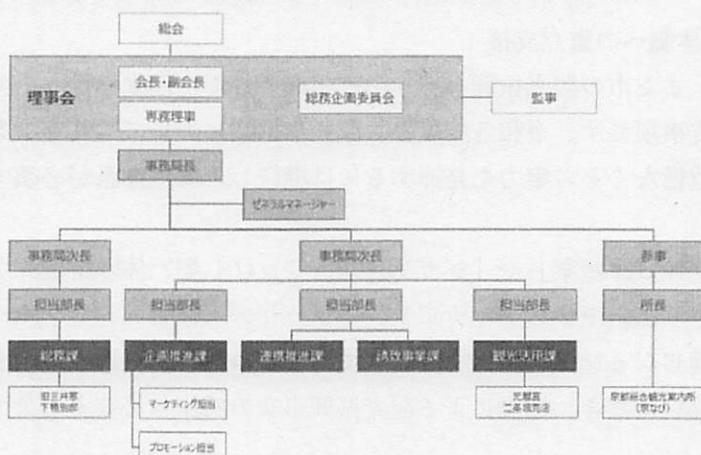
- (1) 観光振興ビジョンに資する職員体制への重点支援
 - ・観光振興ビジョンの運営組織、また市の観光振興を担う中核組織としての活動を行う上で、事務局組織の人材確保は最優先事項です。令和5年度は、観光庁事業において臨時職員を雇用することが叶いましたが、遺憾なくその実力を発揮するには継続した雇用体系が必須です。
 - ・滋賀県のすすめる「しが森林サービス産業」や「シガリズムトリップ」等、体験型観光などを販売商品化し、グリーンツーリズムやサスティナビリティツーリズム、アドベンチャーツーリズム等と関連付け観光振興ビジョンとあわせて展開していくために、引き続き案内所において市の行政職員1名に勤務いただき、協働による観光振興事業の実施は必要不可欠です。
- (2) 財源の確保に向けた取組への継続支援
 - ・観光施策に用いる財源の確保に向けた取組として、全国各地ですでに実施されているふるさと納税や入湯税もしくは宿泊税による観光財源の確保等の取組を参考に、予約手数料や駐車場料金などの収入確保への取り組みは、当協会単独での実現は非常に困難です。
 - ・地域の稼ぐ力を引き出し地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するために、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人となるべき取り組みについて、協会独自の事業収入では限界があり、組織体制を維持するのも困難ですので経費の支援が必要不可欠です。

【現状と課題】

当協会は、前身となる任意団体「栗東町観光協会」が昭和30年代後半に設立され、平成18年の「特名産振興会」との合併を経て、令和2年5月に法人格を取得しました。昨年度は、滋賀県「やまの健康推進プロジェクト」3か年の最終年にあたり、中山間地の森林資源を活用し林業体験活動等を通じた農山村と都市部居住者との交流による地域経済のさらなる活性化に向け取り組むとともに、「しが森林サービス産業」と協働で栗東市南部の金勝地域へ企業を招いてのモニターツアーとして実施し、県内初となる森林空間の利活用を含む「琵琶湖森林づくりパートナー」の三者協定を締結しました。さらに今年度は、栗東市観光振興ビジョンに基づき持続可能な観光振興を実現するべく、観光庁事業「第2のふるさとづくりプロジェクト」や「インバウンド観光コンテンツ造成事業」に採択いただき、受入環境整備、情報発信など栗東市との連携・協働により各種事業に取り組んでおります。

栗東市観光振興ビジョンの基本方針II「行きたい、会いたい、体験したいと思われる体系と体制づくり」にある、戦略的なマーケティング計画の実行体制および組織体制の構築に向け、人財の確保および育成は喫緊の課題です。また、財源の獲得および収益構造の確立は、「地域の観光のかじ取り役」としての責務を果たしていくためにも、地域の文化や產品を活かす持続可能な観光振興を図っていく上でも重要な課題です。

【参考資料】観光協会組織図；公益社団法人京都市観光協会

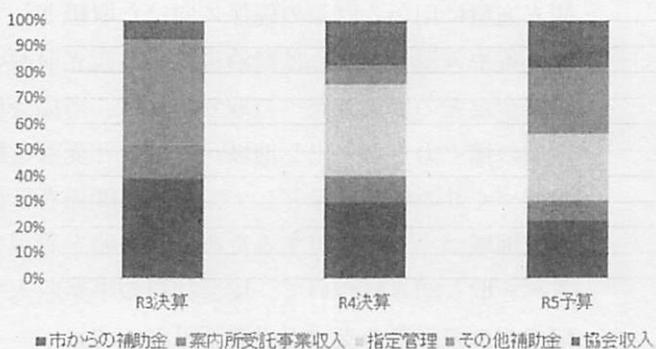


公益社団法人京都市観光協会は、観光庁が目指す世界に誇れる持続可能な観光地域づくりを行う「世界的なDMO形成」に向け、令和5年3月「先駆的DMO」（全国で3法人）に選定されています。

図：京都市観光協会ホームページより引用

【参考資料】過去3年間の財源割合

令和3年度に観光庁実証事業採択、令和4年度より指定管理施設の受託開始、今年度は再度観光庁事業に採択と事業規模は年々拡大していますが、事務局体制の拡充には至っていません。※国及び県からの補助金は、その他補助金に含む。



2. 森林空間をはじめとした自然資源の活用による地域活性化への取組支援

栗東市の面積の約半分を占める森林空間は貴重な地域資源です。森林の持つ多面的機能を林業以外でも発揮することで、ひとがより健康にくらしていくことへ貢献でき、都市部では体感できない魅力を伝え、本市への訪問を促進させることで地域経済への波及効果が期待できます。

【要望内容】

- | | |
|----------------------------------|------|
| (1) サスティナブルな観光実現に向けた取り組み推進への支援 | (新規) |
| ・森林サービス産業の推進に係る取組に対する経費の支援 | |
| ・ウェルネスツーリズムおよびアドベンチャーツーリズムの推進支援 | |
| (2) 継続した来訪による地域経済活性化に向けた取り組みへの支援 | (継続) |
| ・地域活動団体と連携した再来訪促進への取り組みに対する経費の支援 | |
| (3) 周遊促進施策への継続支援 | (継続) |
| ・観光振興ビジョンに基づく周遊を促進する取組に係る経費の継続支援 | |

【要望理由】

- | | |
|--|--|
| (1) サスティナブルな観光実現に向けた取り組み推進への支援 | |
| ・森林を多面的な利活用を実践していくために、多様な分野や域内での連携を促進し波及効果を最大化していくための取組が必要です。 | |
| ・旅行を通じて自分自身の変化や視野の拡大、学び等を得ることを目的とした、旅行者それぞれの興味・関心に応じたテーマ・ストーリー性のある滞在プランなど、栗東市ならではの体験を提供することが求められています。 | |
| (2) 継続した来訪による地域経済活性化に向けた取り組みへの支援 | |
| ・「栗東市観光マーケティング計画 2022-2024」における「戦略の4つの柱」である「地域社会との共生」を地域資源である森林空間の利活用を通じて達成するためには、国内需要を掘り起こし、地域社会や地域住民が観光の恩恵を享受できる仕組みを構築する必要があります。 | |
| (3) 周遊促進施策への継続支援 | |
| ・サイクルスタンプラリー、フォトコンストなど市内の周遊を促すことにより、観光振興ビジョン基本方針II-基本事業(4)にある地域経済活性化の推進①観光関連消費の喚起を実現します。 | |

【現状と課題】

市の約半分（44%）を森林が占めている栗東市ですが、森林を有する市南部の金勝（こんぜ）地域では、高齢化や後継者問題、空き家対策、遊休農地対策等、課題が山積しており農林業や地域の活性化に向けた森林空間の利活用が望まれます。

当協会では、栗東市南部の金勝地域を中心とした森林空間の利活用をすすめ自然と伝統文化、健康などの要素を取り入れ体験観光コンテンツを造成し、公益社団法人びわこビジターズビューローや滋賀県とも連携しさまざまな誘客施策を実施してきました。

○森林空間の利活用促進について

地域が抱える遊休農地や空き家、高齢化、後継者不足といった課題に対し、多様な分野との連携による「森林サービス産業」の事業スキーム創出に取り組み、地域資源の磨き上げを通し、課題解決に向け取り組んでいきます。

○地域との共生、農山村の活性化に向けて

現在、観光庁「第2のふるさとづくりプロジェクト」での取り組みにおいて「明日の走井を考える会」や「NPO 法人くらすむ滋賀」と連携し国内需要の掘り起こしを実践しておりますが、次年度以降も継続して事業を展開することで、さらなる地域の活性化が期待でき、「住んでよし、訪れてよし」の観光地づくりが実現できます。

○アプリ等を活用した市内周遊促進について

滋賀県の進める「ビワイチアプリ」と連携し、密を避け周遊する仕組みとして開始したスタンプラリーですが、多くの方に利用頂き好評を得ており、閑散期の周遊促進策として効果を発揮しています。

○ORITTO フォトコンテストの開催

当協会は平成元年に市民からの公募による「栗東八景」を選定し、その普及および宣伝広報活動として開始したフォトコンテスト。継続して開催する事により、入賞作品を市内の施設や事業所で展示するなどして本市の魅力を発信し、魅力の再確認、地域資源の掘り起しが期待できます。

【参考資料】国際観光機関（UNWTO）における「持続可能な観光」の定義

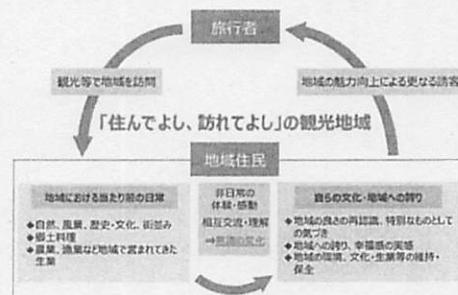
訪問客、業界、環境及び訪問客を受け入れるコミュニティニーズに対応しつつ、現在及び将来の経

済参観料環境への影響を十効れて考慮する観光地づくりの実現

出典：観光庁「持続可能な観光推進モデル事業」概要資料より

旅行者が地域の文化や生業等に触ることで、地域住民も
その価値を再認識し、自らの地域等を誇りに感じる

地域の更なる魅力向上を通じて、地域住民・旅行者双方の好循環を実現



出典：近畿運輸局「大阪・関西万博に向けた関西観光アクションプラン」より

3. 歴史文化要素の保存継承に向けた取組への支援

これまでの先人たちによる惜しみない努力により守り、育まれ、生活の基盤となってきた歴史や文化。このまちに関わるすべてのひとの心の風景を彩る歴史文化を後世によりよく伝え、残していくことで新たな価値を創造し、地域経済の好循環を生み出す施策の実現を図られたい。

〈継続要望〉

【要望内容】

- (1) 国指定史跡の観光拠点化推進
 - ・国指定史跡「旧和中散本舗」の適切な保存と活用に向けた取組にかかる経費の支援
- (2) 国指定史跡周辺の受入環境整備への重点取り組み
 - ・周辺駐車場および公衆トイレ等の来訪者受入環境の整備
- (3) 新たな魅力創出にかかる取り組み支援
 - ・国指定史跡および名勝の新たな魅力づくりにかかる財政支援

【要望理由】

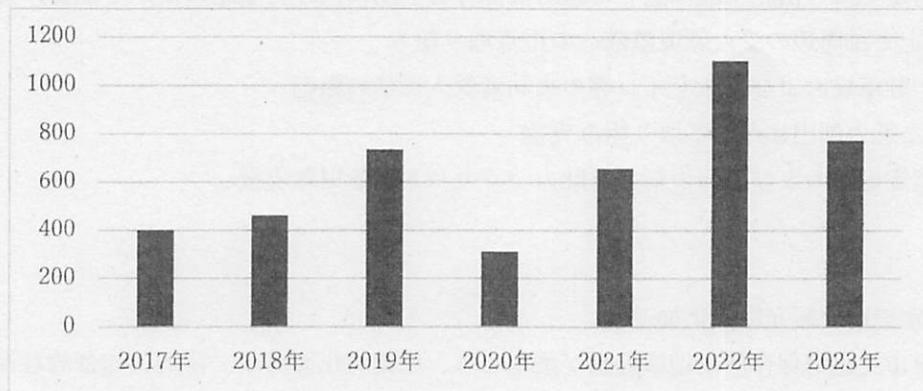
- (1) 国指定史跡の観光拠点化推進
 - ・栗東市文化財保存活用地域計画が策定され、歴史文化要素の一体的、総合的な保存と活用の必要があります。歴史的資源を有効活用し、素晴らしい文化財、施設をよりよく後世に伝え、残していくためには、公開事業を継続実施に留まらない、国指定史跡「旧和中散本舗」の街道観光拠点化を促進する取組が必要不可欠です。
- (2) 国指定史跡周辺の受入環境整備への重点取り組み
 - ・旧和中散本舗の特別公開も年数を重ねるごとに周知が広がり来場者の増加に伴い、駐車場が不足しております、また、公衆トイレがないことでの不便な状況が顕在化してきています。
 - ・歴史文化資産の有効活用を図りもって、地域経済の活性化に寄与するべく旧和中散本舗を街道観光の拠点化を目指して公開事業を実施しておりますが、周辺には公衆トイレがなく、大角家の自家用トイレに頼らざる得ない状況です。館内には、生活用のトイレが一基しかなく公開時には混雑する場面があります。
 - ・トイレ環境は観光客の観光地満足度を大きく左右しますので、街道周辺の公衆トイレ設置が必要です。
- (3) 新たな魅力創出にかかる取り組み支援
 - ・文化財保存活用地域計画に基づいた利用を図り、財源を確保していく必要があります。旧和中散本舗を中心とした文化財や古民家、寺社仏閣の利用や活用方法について、これまでの公開のみの取り組みに捉われない、斬新な発想による新規事業の検証や取り組みに向け、旅行者向けの体験型・滞在型コンテンツの充実および魅力向上に向けた取組が必要です。

【現状と課題】

旧和中散本舗の特別公開は「NPO 法人街道をいかしたまちづくりの会」から事業を引き継ぎ、春と秋の特別公開として実施し、昨年度は「びわ湖のひな人形めぐり」企画にも参画し、文化財の利活用を進めています。このほかにも市内には、国指定史跡の柏坂摩崖仏をはじめ多くの史跡や文化財が存在しており、豊かな自然とのかかわりや日々の暮らしの中で受け継いできた生活文化が豊富にあり、観光資源自体の魅力と合わせて、その歴史的背景やそれにまつわる人々の営みなどのストーリーと一緒に発信することにより、ほかにはない「栗東ならでは」の魅力を伝えることができます。

○国指定史跡「旧和中散本舗」活用事業

グラフ；旧和中散本舗特別公開年度別来場者の推移



○文化財の観光拠点化推進

現状、旧和中散本舗の特別公開に伴い、周辺の私有地や市所有の土地をお借りして駐車場として使用しておりますが、駐車可能台数が少なく満車になることも多く、来訪者への案内に苦慮しており、過去の公開時には、農道や近隣歩道への路上駐車等で近隣住民の方にご不便ご迷惑をお掛けすることができました。今後、「観光振興ビジョン」や「文化財保存活用地域計画」に基づき歴史文化の総合的な活用による観光資源の魅力向上を進めていく上で、街道観光の拠点となる駐車場等の受入環境整備については、喫緊の課題です。



4. 市内への観光客受入環境整備への継続支援

平成24年6月、JR草津線手原駅2階に本市で初となる「観光案内所」が設置され10年が経過し、その間に、平成31年2月には日本政府観光局（JNTO）認定の「外国人観光案内所カテゴリー1」を取得するなど機能強化およびサービス向上に努め、利用者も年々増加してきました。

〈継続要望〉

【要望内容】

- (1) 市内二次交通の確保に向けた取組への継続支援
 - ・より快適に域内での周遊および滞在を可能にするため、観光振興ビジョンに基づく市内二次交通の利便性向上に係る取組に対する経費の支援
- (2) 市内にある駅構内観光案内拠点の機能強化
 - ・既存案内所での特産品販売の在庫管理業務効率化および平準化のためにPOSレジ（point of sale 販売時点情報管理システム）導入を図られたい
 - ・利用者の生活行動に応じるため、多様な支払行動を可能にする機能付帯を図られたい
 - ・利用者の行動を円滑に支援するための手荷物預かり機能付帯を図られたい
- (3) 拠点となる施設の受入環境整備
 - ・こんぜの里周辺の駐車場環境およびトイレ環境の改善、市内からの案内看板設置
 - ・アグリの郷栗東の駐車場環境およびトイレ環境の改善

【要望理由】

- (1) 市内二次交通の確保に向けた取組への継続支援
 - ・コミュニティセンター金勝以南の地域への公共交通機関の乗り入れは、土日においては皆無となっており、フォレストアドベンチャー・栗東等アクティビティ施設をはじめ、公共交通機関へのアクセスが困難な状況となっています。
 - ・市域での周遊促進、地域経済活性化、観光振興ビジョン基本方針II-基本事業（2）受入環境の整備と受入意識の醸成-②交通アクセスの利便性向上に向けて、主要駅からの二次交通網の整備は必要不可欠です。
- (2) 市内にある駅構内観光案内拠点の機能強化
 - ・現金のみの支払にしか対応できない状況は多様な来訪者を迎えるための受入環境と言えませんので、早急な対応が必要です。
 - ・将来の駅案内所新設を視野に入れ、業務の効率化ならびに平準化は急務です。
 - ・利用者からの要望の多い荷物の一時預かりのためのロッカー設置が必要です。
- (3) 拠点となる施設の受入環境整備
 - ・観光振興ビジョン基本方針II-基本事業（2）にある受入環境の整備と受入意識の醸成の実現に向け、市内周遊の拠点となる道の駅の環境改善および機能強化は必要不可欠です。

【現状と課題】

当協会は、平成 28 年より栗東観光案内所事業を受託し本市を訪れる観光客への情報やサービス提供を開始し、平成 31 年には日本政府観光局（JNTO）認定の「外国人観光案内所カテゴリー1」取得など、サービス向上に努めてまいりました。

観光案内所のある手原駅のほかに、市内には栗東駅が存在します。また、道の駅も「こんぜの里りつとう」と「アグリの郷栗東」と 2 か所あります。市内での周遊を促進させ域内経済活性化のため、これら来訪者が多く集まる場所に「観光案内」機能を有することは当面の課題です。

また、市内には公共交通機関でアクセスができない史跡や名所が多数存在していることも観光客を受け入れる障壁となっています。

○こんぜめぐりちゃんバス運行

平成 27 年度より、従前の「こんぜシャトルバス」から周遊型の「こんぜめぐりちゃんバス」へとリニューアルし、それ以降、運行ダイヤの見直しや停留所の新設、バス本体へのラッピング、JR 西日本各駅に配荷される情報誌への有料広告出稿など、改善を重ねながら運行しておりますが、現行のバス 1 台による運行ダイヤには限界があり、増便を期待する声にはお応えできない現状です。

○観光案内所の機能強化について

観光案内所での特名産品販売において、取扱い点数や売り上げが増加するとともに係員の負担が増大しており、在庫管理の簡略化、業務の効率化ならびに平準化を目的に POS レジ（point-of sale 販売時点情報管理システム）導入の必要があります。また、来訪者からの荷物の一時預かりやロッカー設置場所を求める声があり、その必要性が高まっています。

○観光案内看板の整備について

主要幹線道路から市内各所への誘導看板の設置や整備について、域内での滞在時間延伸や来訪者の満足度向上に資するため、また、金勝アルプスハイキングコースや金勝寺へのアクセスに要する林道利用の多様化に対応し利用者の安全確保の観点からも、啓発看板等の設置とあわせて観光案内看板の充実を図る必要があります。

○こんぜの里周辺施設について

滋賀日産リーフの森や横ヶ峰展望所で駐車区画が不足し、区画外駐車や路上駐車が横行しており安全管理上危険なケースが散見されており、周辺道路における利用者の安全確保が課題となっています。また、横ヶ峰展望所および平谷球場のトイレ環境は設置当時のままです。

○アグリの里栗東の駐車場環境およびトイレ環境の改善

アグリの郷栗東においても、駐車区画が不足し、駐車できない来訪者を受け入れることが出来ず大きな機会損失につながっています。また、屋外トイレも順次様式化を進めさせていただいてはおりますが、一部和式が残っており、設備の更新が必要です。

5. りつとうの魅力を伝える戦略的な情報発信体制への継続支援

りつとうの自然や歴史、文化、食、地域交流等の魅力について、観光マーケティング計画やシティセールス戦略計画と連動し本市への来訪動機を喚起するために、整理された情報を適切なタイミングで発信できる広報体制の強化へ継続した支援をお願いします。

〈継続要望〉

【要望内容】

(1) 情報発信環境の整備に向けた取組への継続支援

- ・情報誌の継続発行、関西万博を見据えた多言語化ツール作成にかかる経費への支援
- ・国内に限らず海外へ向けたWebおよびSNS運用を実践するためのデジタル環境整備に要する経費の支援

【要望理由】

(1) 情報発信環境の整備に向けた取組への継続支援

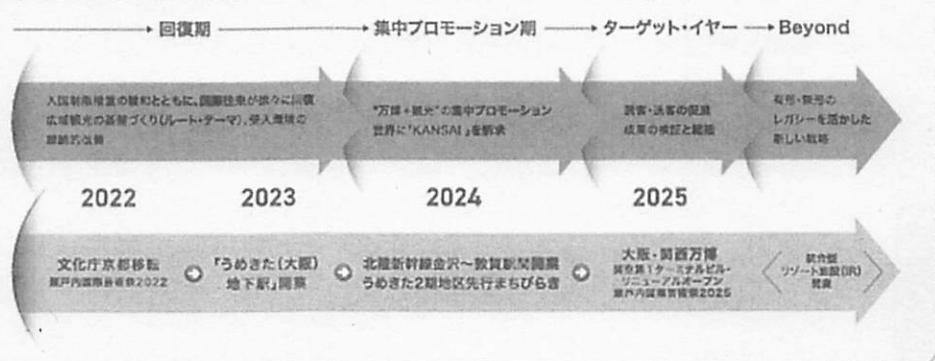
- ・観光振興ビジョン基本方針II-基本事業（3）戦略的な情報発信体制の強化により、観光客の滞在時間の延長、周遊を促し、域内での消費単価を増加させ、基本方針II-基本事業（4）にある地域経済活性化の推進を実現します。
- ・2025年に開催される「大阪・関西万博」に向け注目が高まる中、近畿運輸局や一般財団法人関西観光本部といった広域連携の枠組みと協調し、デジタル技術を活用し情報発信に取り組むことは単独で取り組むのに比べ非常に効果的です。

【現状と課題】

市内の情報を集約し、一元化して発信している「栗東市公式観光サイト」の管理運用を強化すべく、インスタグラムをはじめ、FacebookやTwitterといったSNSを開設し、ホームページと連動させ運用することでの確な情報発信に取り組み、また、電子媒体のみに限らず、従来の紙媒体も有効に活用するために、訴求力の高いコンテンツを掲載し、来訪意欲を促す取組を実施してまいりました。

関西万博を契機とした、「関西ツーリズムグランドデザイン2025」による集中プロモーション期にあわせた情報発信は絶好の機会です。

【参考資料】一般財団法人関西観光本部「関西ツーリズムグランドデザイン2025」より



ティセ
グで発

令和5年10月12日

綱要)

栗東市議会
議長 上田 忠博 様

に要す

光客の
(4) に

一般
報発信

べく、
上運用
用する

期にあ

一般社団法人栗東市観光協会

会長 田中 義信

